

認定こども園の教育・保育のチェックリスト100

評価記入用紙 1

2025/9/1

平成30年度施行 幼保連携型認定こども園教育・保育要領のチェック含む

園名 ひまりさかえこども園

氏名

クラス

<評価方法> 十分理解できている(十分にできている)…◎ 理解している(できている)…○ ふつう…▲ 努力が必要…×

◎ ○ ▲ ×

No.	チェックシート	評価
-----	---------	----

I 園の基本姿勢について(5項目)

教育・保育理念や目標の理解

Q1	園の教育・保育理念や目標及び重要事項を理解している。	8	16	2	0
Q2	教育・保育理念及び目標と教育・保育要領の関係を理解し、教育課程、教育・保育の全体的な計画、及び子育ての支援計画に基づいて、指導計画を立てている。	7	17	2	0

認定こども園としての社会的責任の理解

Q3	園児の人権に十分配慮し、園児一人一人の人格の尊重、個人差に配慮した教育・保育を行っている。	16	10	0	0
Q4	個人情報を適切に取り扱うとともに(プライバシーの保護、秘密保持)、保護者からの苦情に対し、その解決を図るよう努めている。	16	10	0	0

職員としての心構え

Q5	就業規則などの諸規則を理解し、守り、業務遂行にあたって正確・迅速・かつ、こまめに報告・連絡・相談・確認を実践している。	11	14	1	0
----	---	----	----	---	---

小 計

58 67 5 0

II 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(93項目)

第1章 総則

- 第1 幼保連携型認定こども園における教育及び保育の基本及び目標等
- 第2 教育及び保育の内容並びに子育ての支援等に関する全体的な計画等
- 第3 幼保連携型認定こども園として特に配慮すべき事項

第2章 ねらい及び内容並びに配慮事項

- 第1 乳児期の園児の保育に関するねらい及び内容
健やかに伸び伸びと育つ/身近な人と気持ちが通じ合う/身近なものと関わり感性が育つ
- 第2 満1歳以上満3歳未満の園児の保育に関するねらい及び内容
健康/人間関係/環境/言葉/表現
- 第3 満3歳以上の園児の教育及び保育に関するねらい及び内容
健康/人間関係/環境/言葉/表現
- 第4 教育及び保育の実施に関する配慮事項

第3章 健康及び安全

- 第1 健康支援
- 第2 食育の推進
- 第3 環境及び衛生管理並びに安全管理
- 第4 災害への備え

第4章 子育ての支援

- 第1 子育ての支援全般に関わる事項
- 第2 幼保連携型認定こども園の園児の保護者に対する子育ての支援
- 第3 地域における子育て家庭の保護者等に対する支援

第1章 総則(47項目)

第1 幼保連携型認定こども園における教育及び保育の基本及び目標等

1 幼保連携型認定こども園における教育及び保育の基本

Q6	乳幼児期の教育及び保育は、子どもの健全な心身の発達を図りつつ生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものであることを知っている。	16	9	1	0
Q7	「就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律」(認定こども園法)第2条第7項に規定する目的及び第9条に掲げる目標を知っている。	7	15	3	1
Q8	幼保連携型認定こども園(以下、設問中は「認定こども園」)における教育及び保育は、上記の目的及び目標を達成するため、乳幼児期全体を通して、その特性及び保護者や地域の実態を踏まえ、環境を通して行うものであることを基本とし、家庭や地域での生活を含めた園児の生活全体が豊かなものとなるように努めている。	9	13	4	0

Q9	保育教諭等は、園児との信頼関係を十分に築き、園児が自ら安心して身近な環境に主体的に関わり、環境との関わり方や意味に気付き、これらを取り込もうとして、試行錯誤したり、考えたりするようになる幼児期の教育における見方・考え方を生かし、その活動が豊かに展開されるよう環境を整え、園児と共によい教育及び保育の環境を創造するよう努めている。	9	15	2	0
Q10	乳幼児期は周囲への依存を基盤にしつつ自立に向かうものであることを考慮して、周囲との信頼関係に支えられた生活の中で、園児一人一人が安心感と信頼感をもっていろいろな活動に取り組む体験を十分に積み重ねられるようにしている。	14	11	1	0
Q11	乳幼児期においては生命の保持が図られ安定した情緒の下で自己を十分に発揮することにより発達に必要な体験を得ていくものであることを考慮して、園児の主体的な活動を促し、乳幼児期にふさわしい生活が展開されるようにしている。	12	12	2	0
Q12	乳幼児期における自発的な活動としての遊びは、心身の調和のとれた発達の基礎を培う重要な学習であることを考慮して、遊びを通しての指導を中心として第2章に示すねらいが総合的に達成されるようにしている。	11	11	3	1
Q13	乳幼児期における発達は、心身の諸側面が相互に関連し合い、多様な経過をたどって成し遂げられていくものであること、また、園児の生活経験がそれぞれ異なることなどを考慮して、園児一人一人の特性や発達の過程に応じ、発達の課題に即した指導を行うようにしている。	10	11	5	0

2 幼保連携型認定こども園における教育及び保育の目標

Q14	認定こども園は、生きる力の基礎を育成し、義務教育及びその後の教育の基礎を培うとともに、子どもの最善の利益を考慮しつつ、その生活を保障し、保護者と共に園児を心身ともに健やかに育成するものであることを知っている。	13	11	2	0
-----	--	----	----	---	---

3 幼保連携型認定こども園の教育及び保育において育みたい資質・能力及び「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」

Q15	認定こども園において、生きる力の基礎を育むため、認定こども園の教育及び保育の基本を踏まえ、一体的に育むよう努める資質・能力の3本の柱を知っている。	12	11	3	0
Q16	「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」10項目について知っている。	9	13	4	0
Q17	「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は、第2章に示すねらい及び内容に基づく活動全体を通して資質・能力が育まれている園児の認定こども園修了時の具体的な姿であり、保育教諭等が指導を行う際に考慮するものであることを知っている。	8	14	4	0

第2 教育及び保育の内容並びに子育ての支援等に関する全体的な計画等

1 教育及び保育の内容並びに子育ての支援等に関する全体的な計画の作成等

(1) 教育及び保育の内容並びに子育ての支援等に関する全体的な計画の役割

Q18	認定こども園においては、教育基本法、児童福祉法、認定こども園法、その他の法令、教育・保育要領の示すところに従い、教育と保育を一体的に提供するため、園児の心身の発達と園、家庭、地域の実態に即応した適切な教育及び保育の内容、子育ての支援等に関する全体的な計画を作成することを知っている。	6	16	4	0
Q19	全体的な計画とは教育と保育を一体的に捉え、園児の入園から修了までの在園期間の全体にわたり、園の目標に向かってどのような過程をたどって教育及び保育を進めていくかを明らかにするものであり、子育ての支援と有機的に連携し、園児の園生活全体を捉え、作成する計画であることを知っている。	7	16	3	0
Q20	「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえて全体的な計画を作成することを知っている。	12	12	2	0
Q21	カリキュラム・マネジメント、つまり全体的な計画の作成、実施、評価、改善によって園の教育及び保育活動の質の向上が図られている。	12	10	4	0

(2) 各幼保連携型認定こども園の教育及び保育の目標と教育及び保育の内容並びに子育ての支援等に関する全体的な計画の作成

(3) 教育及び保育の内容並びに子育ての支援等に関する全体的な計画の作成上の基本的事項

Q22	認定こども園における生活の全体を通して第2章に示すねらいが総合的に達成されるよう、教育課程に係る教育期間、園児の生活経験、発達の過程などを考慮して具体的なねらいと内容を組織している。	9	13	4	0
Q23	認定こども園の満3歳以上の園児の教育課程に係る教育週数は、特別の事情のある場合を除き、39週を下まわってはならないこと、1日の教育課程に係る教育時間は、4時間を標準とすることを知っている。	9	10	6	1

(4) 教育及び保育の内容並びに子育ての支援等に関する全体的な計画の実施上の留意事項

Q24	認定こども園においては、園長の方針の下に、園務分掌に基づき保育教諭等職員が適切に役割を分担しつつ、相互に連携しながら、全体的な計画や指導の改善を図っている。	5	17	4	0
Q25	認定こども園が行う教育及び保育等の評価については、全体的な計画の作成、実施、改善が教育及び保育活動や園運営の中核となることを踏まえ、カリキュラム・マネジメントと関連付けながら実施するよう留意している。	7	13	5	1

(5) 小学校教育との接続に当たっての留意事項

Q26	認定こども園においては、その教育及び保育が、小学校以降の生活や学習の基盤の育成につながることに配慮し、乳幼児期にふさわしい生活を通して、創造的な思考や主体的な生活態度などの基礎を培うようにしている。	8	15	3	0
Q27	認定こども園の教育及び保育において育まれた資質・能力を踏まえ、小学校教育が円滑に行われるよう、小学校の教師との意見交換や合同の研究の機会などを設け、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共有するなど連携を図り、認定こども園における教育及び保育と小学校教育との円滑な接続を図るよう努めている。	6	14	5	1

2 指導計画の作成と園児の理解に基づいた評価

(1) 指導計画の考え方

Q28	認定こども園における教育及び保育は、園児が自ら意欲をもって環境と関わるによりつくり出される具体的な活動を通して、目標の達成を図るものであることを知っている。	13	10	3	0
Q29	認定こども園においては上記を踏まえ、乳幼児期にふさわしい生活が展開され、適切な指導が行われるよう、調和のとれた組織的、発展的な指導計画を作成し、園児の活動に沿った柔軟な指導を行っている。	9	13	4	0

(2) 指導計画の作成上の基本的事項

Q30	指導計画は、園児の発達に即して園児一人一人が乳幼児期にふさわしい生活を展開し、必要な体験を得られるようにするために、具体的に作成している。	12	11	3	0
Q31	指導計画の作成に当たっては、具体的なねらい及び内容を明確に設定し、適切な環境を構成することなどにより活動が選択・展開されるようにしている。	11	10	5	0
Q32	具体的なねらい及び内容は、園の生活における園児の発達の過程を見直し、園児の生活の連続性、季節の変化などを考慮して、園児の興味や関心、発達の実情などに応じて設定している。	14	11	1	0
Q33	環境は、具体的なねらいを達成するために適切なものとなるように構成し、園児が自らその環境に関わるにより様々な活動を展開しつつ必要な体験を得られるようにしている。	11	13	2	0
Q34	園児の行う具体的な活動は、生活の流れの中で様々に変化するものであることに留意し、園児が望ましい方向に向かって自ら活動を展開していくことができるよう必要な援助をしている。	12	13	1	0

(3) 指導計画の作成上の留意事項

Q35	長期的に発達を見通した年、学期、月などにわたる長期の指導計画やこれとの関連を保ちながらより具体的な園児の生活に即した週、日などの短期の指導計画を作成し、適切な指導が行われるようにしている。	12	10	4	0
Q36	園児が様々な人やものとの関わりを通して、多様な体験をし、心身の調和のとれた発達が促されるようにし、園児の発達に即して主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)が実現するようにしている。	9	13	4	0
Q37	言語に関する能力の発達と思考力等の発達が関連していることを踏まえ、園における生活全体を通して、園児の発達を踏まえた言語環境を整え、言語活動の充実を図っている。	8	13	5	0
Q38	小学校教育との円滑な接続のため、認定こども園の園児と小学校の児童との交流の機会を積極的に設けている。	5	13	7	1

(4) 園児の理解に基づいた評価の実施

Q39	指導の過程を振り返りながら園児の理解を進め、園児一人一人のよさや可能性などを把握し、指導の改善に生かすようにしている。	12	12	1	1
-----	---	----	----	---	---

Q40	評価の妥当性や信頼性が高められるよう創意工夫を行い、組織的、計画的な取組を推進し、次年度や小学校等にその内容が適切に引き継がれるようにしている。	5	14	7	0
3 特別な配慮を必要とする園児への指導					
(1) 障害のある園児などへの指導					
Q41	障害のある園児などへの指導に当たっては、集団の中で生活することを通して全体的発達を促していくことに配慮し、適切な環境の下で、他の園児との生活を通して共に成長できるよう、個々の園児の障害の状態などに応じた指導内容や指導方法の工夫を組織的かつ計画的に行っている。	4	17	4	1
Q42	また、家庭、地域及び医療や福祉、保健等の業務を行う関係機関との連携を図り、長期的な視点で障害のある園児への教育及び保育的支援を行うために、個別の教育及び保育支援計画を作成し活用すること、個々の園児の実態を的確に把握し、個別の指導計画を作成し活用することに努めている。	3	17	6	0
(2) 海外から帰国した園児や生活に必要な日本語の習得に困難のある園児の幼保連携型認定こども園の生活への適応					
Q43	海外から帰国した園児や生活に必要な日本語の習得に困難のある園児については、安心して自己を発揮できるよう配慮するなど個々の園児の実態に応じ、指導内容や指導方法の工夫を組織的かつ計画的に行っている。	3	14	8	1
第3 幼保連携型認定こども園として特に配慮すべき事項					
Q44	入園した年齢により集団生活の経験年数が異なる園児がいることに配慮する等、0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育を園児の発達や学びの連続性を考慮して展開している。	8	15	3	0
Q45	0歳から小学校就学前までの様々な年齢の園児の発達の特性を踏まえ、満3歳未満の園児については、特に健康、安全や発達の確保を十分に図っている。	11	14	1	0
Q46	同様に満3歳以上の園児については、同一学年の園児で編制される学級による集団活動の中で、遊びを中心とする園児の主体的な活動を通して発達や学びを促す経験が得られるよう工夫している。	10	11	4	1
Q47	満3歳未満の園児については睡眠時間等の個人差に配慮するとともに、満3歳以上の園児については集中して遊ぶ場と家庭的な雰囲気の中でくつろぐ場との適切な調和等の工夫をしている。	7	17	2	0
Q48	満3歳未満の園児については、大人への依存度が極めて高い等の特性があることから、個別の対応を図り、また、園児の集団生活への円滑な接続について、家庭等との連携及び協力を図る等十分留意している。	11	12	3	0
Q49	園児の発達の連続性を考慮した教育及び保育を展開する際には、満3歳未満の園児については、園児一人一人の成育歴、心身の発達、活動の実態等に即して、個別の計画を作成し、満3歳以上の園児については、個の成長と、園児相互の関係や協働的な活動が促されるよう考慮している。	10	13	3	0
Q50	「生命の保持」について知っている。	11	12	3	0
Q51	「情緒の安定」について知っている。	12	11	3	0
Q52	認定こども園は主幹保育教諭を中心とした「子育ての支援」が必須であることを知っている。	14	9	3	0
小 計		448	600	164	10

第2章 ねらい及び内容並びに配慮事項(28項目)

Q53	第2章に示すねらいは認定こども園の教育及び保育において「育みたい資質・能力を園児の生活する姿から捉えたもの」、内容は「ねらいを達成するために指導する事項」、内容の取扱い「園児の発達を踏まえた指導を行うに当たって留意すべき事項」であることを知っている。	6	16	4	0
Q54	各視点や領域は、この時期の発達の特徴を踏まえ、教育及び保育のねらい及び内容を乳幼児の発達の側面から、乳児は「三つの視点」として、幼児は「五つの領域」としてまとめ、示したものであることを知っている。	12	10	4	0
Q55	各視点や領域に示すねらいは、園における生活の全体を通じて「園児が様々な体験を積み重ねる中で相互に関連を持ちながら次第に達成に向かうもの」、内容は「園児が環境に関わって展開する具体的な活動を通して総合的に指導されるもの」であることを知っている。	8	14	4	0

第1 乳児期の園児の保育に関するねらい及び内容

基本的事項

Q56	基本的事項としての乳児期の発達について知っている。	13	9	4	0
Q57	乳児期の領域「三つの視点」について知っている。	12	9	5	0
Q58	「健やかに伸び伸びと育つ」の意味、ねらい、内容、内容の取扱いについて知っている。	10	11	4	1
Q59	「身近な人と気持ちが通じ合う」の意味、ねらい、内容、内容の取扱いについて知っている。	10	10	5	1
Q60	「身近なものと関わり感性が育つ」の意味、ねらい、内容、内容の取扱いについて知っている。	11	10	4	1

第2 満1歳以上満3歳未満の園児の保育に関するねらい及び内容

基本的事項

Q61	基本的事項としての満1歳以上満3歳未満の園児の発達の内容について知っている。	11	10	5	0
Q62	満1歳以上満3歳未満の「5領域」について知っている。	13	8	5	0
Q63	満1歳以上満3歳未満の「健康」の意味、ねらい、内容、内容の取扱いについて知っている。	12	9	5	0
Q64	満1歳以上満3歳未満の「人間関係」の意味、ねらい、内容、内容の取扱いについて知っている。	13	8	5	0
Q65	満1歳以上満3歳未満の「環境」の意味、ねらい、内容、内容の取扱いについて知っている。	13	8	5	0
Q66	満1歳以上満3歳未満の「言葉」の意味、ねらい、内容、内容の取扱いについて知っている。	13	8	5	0
Q67	満1歳以上満3歳未満の「表現」の意味、ねらい、内容、内容の取扱いについて知っている。	13	8	5	0

第3 満3歳以上の園児の教育及び保育に関するねらい及び内容

基本的事項

Q68	基本的事項としての満3歳以上の園児の発達の内容と「5領域」について知っている。	14	7	5	0
Q69	満3歳以上の「健康」の意味、ねらい、内容、内容の取扱いについて知っている。	10	11	5	0
Q70	満3歳以上の「人間関係」の意味、ねらい、内容、内容の取扱いについて知っている。	10	11	5	0
Q71	満3歳以上の「環境」の意味、ねらい、内容、内容の取扱いについて知っている。	10	11	5	0